

◆出品一覧 ※すべて長岡成光氏寄贈・京都国立博物館所蔵

- 1 北郷時久書状（切紙、潤三月十一日付）  
紙本墨書 一通 桃山時代 天正八年（一五八〇）
- 2 祁答院賀雲書状（切紙、潤三月十一日付）  
紙本墨書 一通 桃山時代 天正八年（一五八〇）
- 3 伊集院忠棟書状（切紙、六月廿八日付）  
紙本墨書 一通 桃山時代 十六世紀
- 4 伊勢貞昌書状（折紙、四月十日付）  
紙本墨書 一通 桃山時代 十七世紀
- 5 伊勢貞昌書状（折紙、夏五月初十日付）  
紙本墨書 一通 桃山時代 十七世紀
- 6 伊勢貞昌書状（折紙、十一月五日付）  
紙本墨書 一通 桃山時代 十七世紀
- 7 川東時弘書状（折紙、五月廿六日付）  
紙本墨書 一通 桃山時代 十七世紀
- 8 沼津承正書状（折紙、仲夏廿九日付）  
紙本墨書 一通 桃山時代 慶長十八年（一六一三）
- 9 伊勢貞昌書状（折紙、九月十四日付）  
紙本墨書 一通 桃山〱江戸時代 十七世紀
- 10 伊勢貞昌書状（折紙、後十月四日付）  
紙本墨書 一通 江戸時代 寛永八年（一六三一）
- 11 本田親正書状（折紙、六月四日付）  
紙本墨書 一通 江戸時代 十七世紀
- 12 島津久元書状（折紙、五月廿一日付）  
紙本墨書 一通 江戸時代 寛永十七年（一六四〇）
- 13 文書目録  
紙本墨書 一通 江戸時代 十七〱十八世紀
- 14 丸に十字紋箔絵文書箱  
推定皮装漆塗 一合 江戸時代 十九世紀
- 15 朱漆塗および玳瑁塗輪花天目台 伝即宗院伝来  
木製 箔押 漆塗 漆絵 三口 桃山〱江戸時代 十七〱十九世紀

#### ◆関連土曜講座

2026 年 1 月 24 日（土）「東福寺即宗院とその文書」

講師：羽田 聡（京都国立博物館 企画室長兼美術室長）

※平成知新館 講堂にて午後 1 時 30 分～3 時に開催。定員 200 名、聴講無料（ただし、当日の観覧券等が必要）。

※当日 9 時 30 分より平成知新館 1 階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

京都国立博物館  
東山七条 KYOTO NATIONAL MUSEUM



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 TEL:075-525-2473（テレホンサービス）  
https://www.kyohaku.go.jp/ X・Instagram: @KyotoNatMuseum



3 伊集院忠棟書状（切紙、六月廿八日付） 東福寺即宗院（薩摩島津氏菩提寺）関係文書のうち  
長岡成光氏寄贈・京都国立博物館

## 特集展示

# 薩摩島津氏と東福寺即宗院

2025年12月16日（火）―2026年1月25日（日）

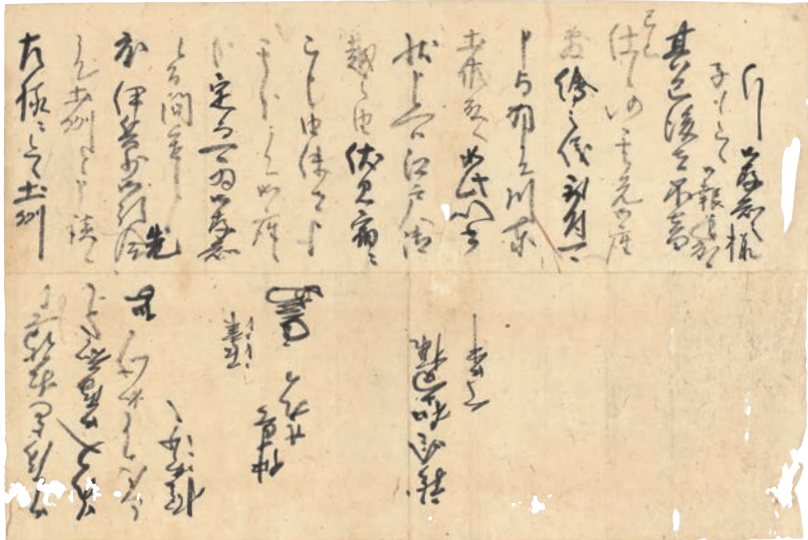
平成知新館（1F―2）

博物館で作品に接していると、いつも「よくぞ遺つてくれた」と思わずにはいられません。なにしろ、彼らは数百年、場合によっては千年以上の時を経て伝えられたわけですから。この特集展示の主人公、東福寺即宗院にまつわる文化財にも似たような感覚を抱きました。

即宗院は、東福寺の山内に数多く存在する塔頭寺院の一つで、現存最古の方丈が国宝指定をうけていることと有名な龍吟庵のすぐ東に位置します。島津氏久（一三二八〱八七）の菩提を弔うため、剛中玄柔（東福寺五十四世）を開基にむかえ、嘉慶元年（一三八七）に創建されたといえます。永禄十二年（一五六九）には火災で焼失するものの、島津家久（忠恒、一五七六〱一六三八）の尽力により、慶長十八年（一六一三）に興を遂げました。

このように、島津氏の菩提寺として歳月を重ねるなかで、即宗院に集積された寺宝の多くは、残念ながら明治維新後の混乱期に寺外へ流出したようです。文化財はあるべきところを離れると、時間が経つにしたがい、本来の秩序や規模は失われますが、令和四年（二〇二二）度、当館は工芸品四点にくわえ、八十八通もの古文書をご寄贈いただきました。確かめると、二通を除けば、いずれも新出と考えられるから驚きです。

そこで、今回の展示では、およそ百五十年ぶりの奇跡の再会を記念し、桃山時代から幕末にいたる古文書のなかでも中核をなす、即宗院の再建に関わるものを中心に紹介いたします。



8 沼津承正書状（折紙、仲夏廿九日付） 東福寺即宗院（薩摩島津氏菩提寺）関係文書のうち  
長岡成光氏寄贈・京都国立博物館

## 釈文

### 1 北郷時久書状（切紙、潤三月十一日付）

就即宗庵御再興、「惠堅首座御下着候、早々」彼儀可被申調之處、向州「表防戦、依繁多延引、」非本意存候、委曲自「鹿兒嶋可被申達候、仍去秋者、」兎筆五対・同関小刀二「拝領候、従是茂段子壺端・」沈香一斤令進上候、補御「祝礼計候、可得尊意候、」恐惶敬白、

潤三月十一日 一雲（花押）

龍吟庵 参侍者御中

（封紙ウハ書）

「北郷前左衛門入道

龍吟庵 参侍者御中 一雲」

#### ◆東福寺即宗院（薩摩島津氏菩提寺）関係文書とは

かつて、薩摩島津氏の菩提寺である東福寺即宗院に伝わった文書群です。永禄十二年（一五六九）の火災にともない、それ以前の文書は焼失したとみられ、天正八年（一五八〇）と考えられる「北郷時久書状」（1）や「祁答院賀雲書状」（2）を上限とし、嘉永四年（一八五二）の「島津斉彬入部参詣入用帳」を下限とする八十八通からなります。表装がなされておらず、ほぼ当初の状態を保つため、内容だけでなく形態の面でも重要な情報を提供してくれます。



2 祁答院賀雲書狀（切紙、潤三月十一日付）

不存寄候、度々御芳翰拜」覽令申候、仍即宗庵就御」再興、被仰下候、則尊答可」被申之処、依干戈無□隙」候之間、延引被申候、剩調儀」成就不申候事、迷惑此時候、」必々後日首尾可申候、将亦、扇子一本片金」送被下候、珍戴申候、雖惡候、香三兩」進獻、補空書計候、余者堅公」御上洛候、諸吉御披露所希候、」恐惶謹言、

潤三月十一日 賀雲（花押）

龍吟庵 尊報衣鉢侍者中

（封紙ウハ書）

「 祁答院前淡路入道

龍吟庵 尊報衣鉢侍者中 賀雲」

3 伊集院忠棟書狀（切紙、六月廿八日付）

東福伽藍之内、就即宗庵」之儀、從 御家門樣到義久、」被成 御書候之處、今度不」被遂御請之旨、其恐懼不少候、」仍彼塔頭再興之事、被致」約諾候之間、尤此節雖可被」励微志候、公儀繁多故、後」年相応之馳走、不可有疎」意候、此等之趣、御仕合次第、」能樣頼存候、恐惶謹言、

六月廿八日 忠棟（花押）

伊勢因幡守殿 人々御中

（封紙ウハ書）

8 沼津承正書狀（折紙、仲夏廿九日付）

尚々御存知之様」子も候ハ、御報承度候、」已上、其已後者、不音」仕候、仍其元御座」敷絵之儀、取付可」申与存候て、川東」土佐殿へ、如此以書」状申候へハ、江戸へ御」越之由、伏見宿ニ」被申候由、使者申候、」其分ニて御座候」哉、定而可為御存知」之間、問進之候、先」度伊兵少御引合」にて、土州と申談候、」左様ニ候ハ、土州」御上洛迄相待可申候、」若又御存知之事も」候ハんかと如此候、恐」惶謹言、

仲夏 沼津

廿九日 承正（花押）

龍吟和尚様 人々御中

9 伊勢貞昌書狀（折紙、九月十四日付）

尊翰拜誦、珍」重多幸、仍我等」煩之儀、自一昨」朝得驗候間、可御」心易候、弥養生」仕、近日以参拜可」申述候、先日者、」被寄光駕候處、」煩故不能拜顔、」背本意候、猶御」使僧へ申達候間、」不能詳候、恐惶謹言、

伊勢兵部少輔

九月十四日 貞昌（花押）

龍吟大和尚 尊酬

「 伊集院右衛門大夫

伊勢因幡守殿 人々御中 忠棟」

4 伊勢貞昌書狀（折紙、四月十日付）

芳墨落手、再三」拜誦、多幸ニ候、」如爾曉、日之先者、」陸奥守頼令参候處、」種々御懇意之儀共」辱旨、内々被申事候、」其後以使者、雖可」被申入候、」御所樣御上着前、」別紛冗故、無音被申候、」殊吾等式被召出候」處、御礼遅引、多」罪ニ候、結句預御使僧、」兩樽拜受、不知所謝候、」猶近日遂参謁、可申」述候、恐惶不宣、

伊勢兵部少輔

四月十日 貞昌（花押）

拜呈 龍吟庵 侍者御中

5 伊勢貞昌書狀（折紙、夏五初十日付）

尊書拜見、恐悦ニ候、」如爾曉、日之先者、遇」被寄高駕之處、」陸奥守依微疾、無」御対顔、非本意者」也、抑大慈寺一儀并」即宗庵再興之儀、」兩条陸奥守へ申」達、被得其意候、尤早々」致参上、御返事」雖可申入候、万事」繁多之故、遅引」多罪ニ候、必近日陪」貴寺、可奉得尊意候、」次竜伯書状、可致」持参候、猶御使僧付」舌頭、閣筆者也、」恐懼不宣、

10 伊勢貞昌書狀（折紙、後十月四日付）

其以来者、互不申通、」非本意候、先以此方」相替儀無之候、然者、当」秋大風之刻、貴寺御」屋作、損申候由候ニ付、修」理之儀、鎌田源左衛門尉」・五代勝左衛門尉へ委申遣候」間、可被成其御心得候、猶重而」可申承候条、不能詳候、」恐惶敬白、

伊勢兵部少輔

後十月四日 貞昌（花押）

即宗院 玉榻下

11 本田親正書狀（折紙、六月四日付）

以上、

御使札之趣、細々」令拜見候、仍御寺修理」之儀ニ付、御合力米之」事承候、今度八木」廿八石相渡申候、爰元」藏衆御使、相談ニて」被売調、代銀六百八」十六匁差上申、被請取」可被成候、猶期後喜候、」恐惶謹言、

本田右衛門

六月四日 親正（花押）

（マ）則宗院様 貴報

12 島津久元書狀（折紙、五月廿一日付）

尚々薩摩守殿繁昌之由候而、」先日預書状候、折節日光へ」供仕、御飛脚之戻を不存、」御報不申入、令

伊勢兵部少輔

夏五初十日 貞昌（花押）

拜呈 龍吟庵 侍者御中

6 伊勢貞昌書狀（折紙、十一月五日付）

御寺被成御立候」付而、御座敷絵之」儀、此沼津紹正へ」被申渡候、以其御心得、」御入魂所仰候、」恐惶敬白、

伊勢兵部少

十一月五日 貞昌（花押）

龍吟庵 侍者御中

7 川東時弘書狀（折紙、五月廿六日付）

以上、

其以後者、不申承候、」仍貴老御隙候者、」与風御下待入候、」様子者、御位倍」之儀、又仏短」御成之」間絵之事、御談合可」申候、将又、八木も相」渡可申候、為御存知候、」恐惶謹言、

川東土佐守

五月廿六日 時弘（花押）

瀧作老 参人々御中

「 迷惑候、以上、

迷惑候、以上、

去五日之御状、令披」見候、先年永安院へ」御移之刻、被成借銀候哉、」左様成通、先度伊」兵部少同前ニ申入儀」共御座候、御礼御慇懃」之至候、弥此銀子之儀ニ付ハ、」御氣遣入間敷候、」定鎌田源左衛門所より」可申来候間、万事可」得其意候、猶期後音、」不能詳候、恐惶謹言、

嶋津下野守

五月廿一日 久元（花押）

即宗院 御報

13 文書目録

覚

- |               |     |
|---------------|-----|
| 一、嶋津下野守久元之状   | 壹通  |
| 同・伊勢貞昌之連状     | 壹通  |
| 一、祁答院入道賀雲之状   | 貳通  |
| 一、北郷左衛門入道一雲之状 | 参通  |
| 一、伊勢兵部少輔貞昌之状  | 拾参通 |
| 同 八木墨付之状      | 壹通  |
| 同仮名文 刑部卿方へ    | 貳通  |
| 一、本田右衛門之状     | 壹通  |
| 一、川東土佐守之状     | 壹通  |
| 画師沼津承正状       | 壹通  |
| 右、廿六通         |     |